

2024

東京藝術大学  
美術学部 工芸科

DEPARTMENT OF CRAFTS,  
TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS

「2024年度」学科案内

# 工芸

KOGEI

彫金  
*Metal Carving*

鍛金  
*Metal Hammering*

鑄金  
*Metal Casting*

漆芸  
*Urushi-Art*

陶芸  
*Ceramics*

染織  
*Textile Arts*

素材造形  
(木材・ガラス)  
*Material Arts*  
*Woodworking & Glass*



TOKYO GEIDAI

東京藝術大学工芸科は彫金、鍛金、鍍金、漆芸、陶芸、染織という分野で専門性の高い教育を上野の地で続けています。素材の扱いやそれを用いて制作するための技術がアーカイブされ常に更新されてきました。ここには確かな歴史が息づいていて私たちはそこで制作研究を続けています。1991年には茨城県取手市に取手校地が開設され陶芸の登窯、木工芸、ガラス工房が稼働しています。さらに2022年度より取手校地の豊かな自然環境の中で、素材造形(木材・ガラス)分野を新たに設けました。

世界的なコロナパンデミック、紛争、予期せぬ自然災害に見舞われる中、私たちは何処に向かおうとしているのでしょうか？日々の暮らしの豊かさに直結する意味で工芸の役割は大きいはずです。工芸作品の持つ力、手で物を作ることのリアルや人々の繋がり、工芸とその周辺を考えることは最も今日的な問題と言えるのではないでしょうか。工芸科では現代に即した表現を模索し、継承していくことと、革新することを問い続けています。素材と対峙しながらつくり、考え、新たな視野を拓けること。そして人々に感動を与える何かを形にする。

世界中から注目される制作の現場がここに 있습니다。それぞれの才能を開花させて世界に羽ばたいてもらいたいと思っています。



DEPARTMENT OF CRAFTS,  
TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS

工芸学部入学試験は、第1次試験の鉛筆写生、第2次試験の平面表現、立体表現、大学入学共通テスト、出身校の調査書から総合的に審査し判定します。

受験科目だけのエキスパートになるのではなく、様々な場面において力を発揮する柔軟な学生を求めています。

問題文は、以下の本学ウェブサイト「入試過去問題」からご覧頂けます。  
<https://admissions.geidai.ac.jp/>



## 平面表現

描写力や構成力をつけることが基礎となり、同時に豊かな色彩感覚を身につけることで工芸独自の質の高い作品を制作することが可能になります。対象を観察し構成する能力は、素材を扱い制作することに必要で、豊かなイメージや感性を養うことにも繋がります。



2024年度

## 合格者作品



## 鉛筆写生

写生は、あらゆる意味で創作活動を支える造形の源になるため、工芸科では高い水準のデッサン力を有した人材を求めています。モチーフの観察から得られた発見や感覚は、素材を扱って作品制作をする工芸科にとって大切なことと考えます。

## 立体表現

モチーフの的確な観察による空間を意識した立体感の把握、質感の表現は、立体表現における基本です。さらに工芸科の専門分野の様々な素材に対応できる柔軟な能力と、個性溢れるイメージや発想の独自性などが必要となります。



Department of Crafts  
カリキュラム

工芸科では、2022年度学部入学生より、彫金・鍛金・鍍金・漆芸・陶芸・染織・素材造形(木材・ガラス)の7分野編成にて授業展開を行っています。授業は各分野の特徴ある工房を使用した実技指導と、歴史ある資料などを用いた個人指導を中心にしています。

1年次は、基礎的な表現力と造形感覚を習得するため、工芸科各分野の専門技法と絵画科、彫刻科教員による日本画や素描、塑造という美術全般にわたる授業を行います。

2年次より7分野に分かれて専門的

な造形表現や知識を習得していきます。3年次には、複合的な学生の育成を目指し、分野の領域を跨いだ工芸総合演習を実施します。

4年次には卒業制作に取り組み、学部での成果を発表します。

多くの学生が大学院修士課程に進学し、各自の専門性をさらに高めています。その後、博士課程に進学して研究を続ける学生、社会に出る学生と、それぞれの道に進んでいきます。

※2021年度学部入学以前の学生は、入学当初の分野編成で卒業までの授業展開を行います。

工芸科教員「2024年度」

<b>彫金</b>	教授 教授 テクニカルインストラクター 教育研究助手	前田 宏智 岩田 広己 中安 麗/崔 壽現 松本 真実/熊坂 美友
<b>鍛金</b>	教授 教授 テクニカルインストラクター 教育研究助手	丸山 智巳 志村 和彦 岩崎 裕純/塩見 亮介 瀧澤 花織/鎌田 晶
<b>鍍金</b>	教授 准教授 テクニカルインストラクター 教育研究助手	谷岡 靖則 三枝 一将 南 時俊/見目 未果 金 孝真/堀田 光彦
<b>漆芸</b>	教授 教授 テクニカルインストラクター 教育研究助手	小椋 範彦 青木 宏憧 佐々木 岳人/田中館 亜美 新井 寛生/小林 このみ

<b>陶芸</b>	教授 准教授 テクニカルインストラクター 教育研究助手	三上 亮 椎名 勇 茂田 真史/岩淵 真理 中嶋 雄里/仲鉢 聖波
<b>染織</b>	教授 准教授 テクニカルインストラクター 教育研究助手	橋本 圭也 山田 菜々子 大小田 万侑子/梅田 祐子/村尾 拓美 河邊 実央/西村 柊成
<b>素材造形</b> (木材・木工芸) (ガラス・ガラス造形)	講師 教授 テクニカルインストラクター 教育研究助手	菌部 秀徳 藤原 信幸 中内 安紀徳/奥田 康夫/地村 洋平 小石 崇弘/金 到然
<b>工芸</b>	助教 教育研究助手	佐治 真理子 石井 淳/藤壇 真由子
<b>取手工芸</b>	テクニカルインストラクター	下城 爽

カリキュラム(学部)

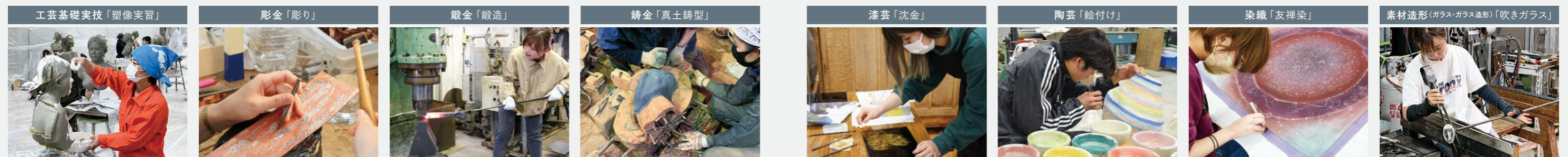
学部	1年	学部	2年	学部	3年	学部	4年								
<b>工芸</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎造形実習</li> <li>実材実習</li> <li>※[彫金][鍛金][鍍金][漆芸][陶芸][染織]より3分野を選択。</li> <li>※[素材造形(木材)][素材造形(ガラス)]から1分野を選択。</li> <li>塑造実習</li> <li>絵画実習(素描)</li> <li>絵画実習(日本画)</li> <li>表示図法</li> <li>※工芸科教員による「工芸制作論」が必修科目です。</li> <li>※「教職課程」「博物館学課程」を選択し履修できます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>彫金</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎技法</li> <li>接合</li> <li>装身具制作</li> <li>象嵌</li> <li>打ち出し</li> </ul> </li> <li><b>鍛金</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>道具整備</li> <li>基本回転絞り</li> <li>花器制作</li> <li>機械工作演習</li> <li>変形絞り</li> </ul> </li> <li><b>鍍金</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>道具制作</li> <li>生型鑄造</li> <li>蠟真土型鑄造</li> <li>石膏鑄造</li> <li>精密鑄造</li> <li>着色研究I</li> </ul> </li> <li><b>漆芸</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>道具制作</li> <li>手板制作</li> <li>工程手板制作</li> <li>蒔絵</li> <li>螺鈿、卵殻、平文</li> </ul> </li> <li><b>陶芸</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>粘土づくり</li> <li>轆轤成形</li> <li>窯炉焼成</li> <li>登り窯焼成[隔年]</li> <li>釉薬見本制作</li> <li>石膏型成形</li> </ul> </li> <li><b>染織</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>色見本制作</li> <li>ろうけつ染</li> <li>紅型、型染</li> <li>スクリーン捺染</li> <li>基本織り組織</li> <li>絁織</li> <li>二重織</li> </ul> </li> <li><b>素材造形</b> 木材・ガラス           <ul style="list-style-type: none"> <li>[木材]               <ul style="list-style-type: none"> <li>道具仕立て</li> <li>指物、曲物</li> <li>刳物、挽物</li> </ul> </li> <li>[ガラス]               <ul style="list-style-type: none"> <li>ホットワーク</li> <li>キルンワーク</li> <li>コールドワーク</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古美術研究旅行</li> <li>工芸総合演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種技法研究</li> <li>箔(各種色金)</li> <li>研究制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>溶接実習</li> <li>鍛造実習</li> <li>木目金実習</li> <li>接合実習</li> <li>研究制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>真土込型鑄造</li> <li>着色研究II</li> <li>溶接実習[隔年]</li> <li>鑄金制作法講義</li> <li>研究制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>蒔絵</li> <li>変わり塗り</li> <li>研究制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>轆轤成形</li> <li>窯炉焼成</li> <li>登り窯焼成[隔年]</li> <li>釉薬及び絵具制作実験</li> <li>泥漿鑄込み成形</li> <li>制作実験</li> <li>研究制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友禅染</li> <li>絞り染</li> <li>綴織</li> <li>フェルトワーク</li> <li>研究制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[木材]               <ul style="list-style-type: none"> <li>木材造形演習</li> <li>木工技法材料演習(家具)</li> </ul> </li> <li>[ガラス]               <ul style="list-style-type: none"> <li>ホットワーク</li> <li>キルンワーク</li> <li>コールドワーク</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業制作</li> </ul>

カリキュラム(修士)

修士	1年	修士	2年
<b>工芸</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>彫金</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>彫金技法研究</li> <li>精密鑄造実習</li> <li>溶接実習</li> <li>彫金制作法</li> </ul> </li> <li><b>鍛金</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>鍛金技法研究</li> <li>精密鑄造実習</li> <li>鍛金制作法</li> <li>取手工工機械室実習</li> <li>七宝演習</li> <li>研究制作</li> </ul> </li> <li><b>鍍金</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>鍍金技法研究(減圧鑄造)</li> <li>鍍金技法研究(セラミック鑄造)</li> <li>プロジェクト演習</li> <li>鍍金制作法</li> <li>研究制作</li> <li>溶接実習</li> </ul> </li> <li><b>漆芸</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>漆造形技法研究</li> <li>漆装飾技法研究</li> <li>漆芸歴史研究</li> <li>研究制作</li> <li>漆造形技法研究</li> <li>漆装飾技法研究</li> </ul> </li> <li><b>陶芸</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>陶磁技法研究</li> <li>窯炉制作実習</li> <li>登り窯焼成</li> <li>研究制作</li> <li>陶磁技法研究</li> <li>研究制作</li> </ul> </li> <li><b>染織</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>染技法研究</li> <li>織技法研究</li> <li>取手草木染研究</li> <li>取手ファイバーク</li> <li>染技法研究</li> <li>織技法研究</li> </ul> </li> <li><b>素材造形</b> 木工芸・ガラス造形           <ul style="list-style-type: none"> <li>[木工芸]               <ul style="list-style-type: none"> <li>木工技法材料研究</li> <li>木材造形研究</li> <li>研究制作</li> </ul> </li> <li>[ガラス造形]               <ul style="list-style-type: none"> <li>ホットワーク</li> <li>キルンワーク</li> <li>コールドワーク</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修了制作</li> </ul>

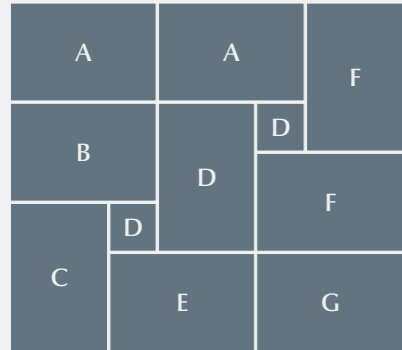
※本カリキュラムは改定になる可能性があります。

制作風景



Department of Crafts  
工芸科の  
学内行事

工芸科では、研究の一環として古美術研究旅行をはじめ、様々な行事やイベントを行います。学生主体で一つのイベントを成し遂げる事や、国際的な視野を広げる経験は、通常の授業とは異なる貴重な機会となります。



A 古美術研究旅行

学部3年生の4月に10日間かけて、奈良と京都の神社仏閣を見学・研究します。

B 国際交流

海外のキュレーターや美術大学教員などを招聘し、国際的な視野を広げる授業をします。

C 藝祭

夏休みに開催する大学祭です。学部1年生は御輿と法被を制作してパフォーマンスをします。

D 制作風景

E 分野ごとの祭事

工房を運営する上で大切な安全を祈願する祭事です。

F 研究旅行

分野それぞれに研究分野への理解を深めることを目的に各地へ旅行をします。

G 卒業・修了作品展

学生制作活動の集大成となる、学部・大学院の研究成果展です。



# 彫金

Metal Carving

鑿を操り生み出される繊細な世界

**彫** 金は、主に金鍍と鑿を使用して、金属を彫る、立体的に打ち出す、他の金属をはめ込み象嵌をするなど、様々な加工技術を基礎として学びます。金属の切削性や可塑性を生かし、金属同士をつなぎ合わせて器やオブジェ、ジュエリーなどの作品が制作されています。また本学の取手校地には金工工房表面処理室があり、七宝焼きについてもカリキュラムを設けて学んでいます。



鑿を用いて鳥の羽毛の形や模様を作っています。

素材には銅・真鍮(黄銅)・錫・鉄・ステンレス・アルミニウム・チタニウムや金・銀・プラチナなどの貴金属、伝統的な日本の合金である赤銅・四分一などがあります。カリキュラムの進行とともに技術や素材の体験を重ねて、感性や表現力を高め、学生それぞれの研究テーマによって制作研究が進められます。たえず生活空間全体を意識し、現状における表現方法の在り方を探求して新しい個性を築き、世界に発信しています。



透かし彫りの技法によるジュエリーの仕上げをしています。



卒業後の進路 | 彫金 IKEUCHI Eiko

独立行政法人 造幣局 / デザイナー

私は、造幣局で製造している記念貨幣、貨幣セットのメダルやパッケージ、七宝章牌などの金属工芸品をデザインしています。これらの製品のテーマは国家的事業のほか、世界遺産やキャラクターなど多岐にわたりますが、取材やリサーチを綿密に行い、関わる人々の想いが伝わる形となるよう心掛けています。また、製造には制約が付きものですが、製造現場とのやりとりを重ねるうちに思いがけない効果が生まれることもあり、ものづくりの面白さを感じています。

ふとした時に、大学で過ごした時間が心に浮かびます。素材と向き合い、四苦八苦しながらも金属や七宝のきらめきに魅せられ続けた日々が、今に繋がっています。



池内映子さん  
2009年修士課程修了

**鍛** 金は、銅などの様々な金属の板を金鍍で叩き立体へ加工する“絞り”と、鉄の棒材などをバーナーや炉で赤くなるまで熱し叩いて加工する“鍛造”の2つの伝統技法を軸としています。

カリキュラムは、基本手絞り実習(回転体)・1枚変形絞り(動物制作)・鍛造実習・接合実習(木目金制作、ロウ付け等)があります。これらの基礎技法に加え現代的な機械加工・各種接合技術なども実習を通して学ぶことで、金属造形の基礎知識と総合的な表現力を養い、より幅広い創作力の向上と多岐にわたる作品制作を目指しています。

卒業後は、現代美術家・伝統工芸作家として独立し活動している者や、専門知識を活かしデザイナー(建築・内装・広告・プロダクトなど)・教育者・研究者などの職に就く者など、様々な方面で活躍しています。



鍛造した制作物に刻印を打ちます。

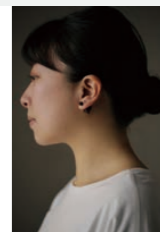


一枚の銅板を、様々な金鍍と当金を用いて造形します。

卒業後の進路 | 鍛金 SAKAGAMI Marie

(株)ヨーガンレール / ジュエリーデザイナー

高校で彫鑄鍛の金属工芸を学び、より深く知りたいたいと思い藝大に入りました。鍛金へ進んだのはスケールの大きさ、空間への自由度が高いと思ったからです。卒業後の7年間は主に金属を用いたインスタレーション作品をメインとして作家活動を続けてきました。今はヨーガンレールのジュエリーデザイナーとして仕事をしています。本場に多種多様な素材・技法を集め考え、手を動かして作っています。作家として自分が思い描くイメージを表現する為に、より様々な素材を柔軟に扱えるようになりたかったため、ここで働くのがピッタリだと思いました。個人的な制作も続けています。この場所で学び成長できたなら、また次のステージがあるのかなと思っています。



阪上万里英さん  
2015年修士課程修了



# 鍛金

Metal Hammering

金鍍を用いて多彩な造形を作り出す

# 鑄金

Metal Casting

イメージにあるかたちを視えるかたちに



1080℃前後の溶解温度で銅合金を流し込みます。その場面を「吹き」と言います。

石膏原型から金属に置き換えるための工程で、日本の伝統的な真土詰め型技法の制作風景

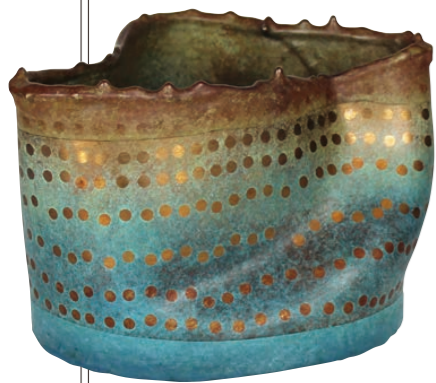
**鑄** 金とは、粘土などの造形しやすい素材で制作した原形を雌型として抜き取ることで鑄型をつくり、その3~4mmの隙間に溶解した流動性の良い合金を流し込むことによって造形される技法を言います。つまり、鑄金では溶けて液体となった金属が再凝固することで、他の造形法にはみられない独特の表現を成すことができます。こういった鑄金造形の制作法は世界各国の

民族によって独自の特徴ある方法で太古の昔から行われており、その民族嗜好がとて分かり易い形で造形されて残っています。

本学の鑄金研究室では130年の歴史の中、楠木正成像などの彫刻や日本橋麒麟像なども鑄造しつつ、工芸としての美を追求してきました。現代による表現でも、鑄金による造形としての重厚さに兼ね合せて精密鑄造技法によ

るとも繊細な表現も可能となり、現代志向での新しい表現に向けて秘めた可能性を試行しつつ急進的な制作をしています。

卒業後は企業への就職、大学院修士・博士課程への進学や海外留学などを通してより深めた独創性ある研究の中、その成果を糧に美術作家・デザイナー・教育者として国内外で活躍しています。



卒業後の進路 | 鑄金 | Valentijn VANMEIRHAEGHE

アーティスト

鑄金研究室に在学中、私にとって最も大きな影響を与えられたことは、素材の性質を活かした伝統工芸の制作技法です。それは自分自身の創作への取り組み方を大きく変えました。日本の制作アプローチはベルギーと比べて、作品と素材自体の結びつきがより深いように感じます。そういった日本の伝統工芸の精神を少しでもベルギーに持ち帰ることが出来ればと思っています。ベルギーと日本両方の制作方法を学んだことで、作品へのより深く面白いアプローチが出来ることと信じています。



バレンタイン・バンメルハーヘさん  
2020年 修士後期課程修了

東京藝術大学で博士号を取得後、ベルギーに帰国し、Art Casting Belgiumで仕上げ職人として勤めながら、鑄物作品やコンテンツポラリイジュエリーを制作するアーティストとして活動も続けています。



最終的な研ぎ作業。完成まであと少し。



伝統的な装飾技法である蒔絵をはじめ、さまざまな技法を基礎から学びます。

**漆** 芸はウルシの木から採取した樹液を用いた芸術です。その歴史は古く、縄文時代から漆は塗料や接着剤の用途で使用され、アジア独自の素材表現として広く知られています。

東京藝術大学の漆芸教育は基本的な塗りの工程(下地、研ぎ、塗り、磨き)から素地制作(乾漆、木胎)、装飾技法(蒔絵、螺鈿、平文、卵殻、沈金、変わり塗りなど)まで一貫した授業を行っています。また漆に関わる外部専門家による集中講義、歴史研究、漆芸ギャラリーでの企画展示、国際交流などを行い、幅広い視野を持った学生を育成するとともに、学生の自主性と社会への発信力を培っていきます。自己の世界観を探究し、多様な漆芸表現を創作研究することで豊かな感性を養い、社会で活躍できる人材を育てます。

卒業後は大学院へ進学し、研究をさらに深める学生も多く、そこから作家・教育者・研究者・デザイナーなどとして国内外で活躍しています。

卒業後の進路 | 漆芸 | SHIMOMURA Fumi

(株)エポック社 / 第三開発進行室

漆という素材の自然で柔らかな色や造形に惹かれ漆芸研究室に進み、日常に溶け込む小さな幸せをテーマに作品制作を行なってきました。先人たちが築き上げてきた伝統ある技術・素材を活かしながらも自分自身の表現を造形に落とし込む作品制作は、試行錯誤の中でびつたりな表現を見つけることがとても楽しかったです。漆芸研究室を修了後は、心を育むものづくりに携わりたいと思い玩具メーカーに就職しました。初年度は営業部に配属され、子どもたちの手元へ玩具が届くまでに様々な過程があり多くの人が関わっていることを実感しました。自ら考え行動することが常に問われます。仕事で漆を扱うことはないですが、素材を知りながら作品を作り上げた経験と創造力、大学で培われた自主性は仕事をやる上での自信であり強みとなっています。



下村史さん  
2021年 修士課程修了



# 漆芸

Urushi-Art

伝統に育まれた自由な立体造形

# 陶芸

Ceramics

培ってきた伝統と現代の陶芸の可能性

**陶** 芸研究室では土を使用したアート表現を探求し、伝統技法や素材理解を基本とした工芸的思考を深め、さらなる新しい表現を目指しています。学年の進行と共に素材研究から生まれる造形性を重視した教育へと発展して行きます。学生自身の柔軟な発想力を生かしながら実技の積み重ねによって、創造性に溢れ広い視野を持った、第一線で活躍できる人材の育成を目標としています。技術面では、轆轤成形、築窯実習、登り窯をはじめ多様な窯の焼成実習、釉薬の調合、デザイン性を主とした石膏鑄込成型など、多岐にわたる現代の陶芸の基礎的な技法を広く学ぶことができます。独自の発展を遂げた日本の陶芸は、世界からますます注目されており、その伝統を礎として海外との交流にも力を注いでいます。



最高温度1300℃の高温に耐えながら80時間程かけて新で焼成していく。

卒業後の進路 | 陶芸 Aikawa Kurumi

studio tetote / 陶芸作家・図工講師

卒業後の数年間働かせていただいた陶芸教室から2年前に独立し、住居兼アトリエとして借りた家で陶芸作家としての制作と小さな陶芸教室を始めました。それとは別で、藝大在学時から続けている子どもアトリエの講師や小学校の図工講師など、子どもたちの造形に携わる仕事もしています。子どもたちに絵や工作を教えていると、大人になったら忘れてしまうような子どもの頃の感覚や目線を思い出したり様々な面白い発見があったりと、思わず気付かされることも多く自分の制作にもたくさんさんの影響をもらえるように思います。

住居とアトリエが一緒の暮らしは家に居ながらも窯や粘土の様子を確認できることができ、家のことや家族のことを大事にしながら仕事と生活ができる良いバランスとなっています。



相川くるみさん  
2017年修士課程修了

糊や蠟で防染する伝統染色技法や、スクリーン捺染によるリピート表現を学び、柔軟な思考による現代的な表現を探求します。



糸を染め、紡ぎ、織る。多様な繊維素材を扱い、多様な織技法を習得し特有のテクスチャーを活かした造形表現が可能となります。



**染** 織は、伝統と現代の融合・発展を教育理念に、工芸においてアートとデザインの双方を兼ね備えた人材育成を行っています。カリキュラムの特色は、染と織の多様な技法をバランス良く編成し、基礎と専門の段階的教育によって技術・表現と知識・理論の専門能力を身につけることができます。各自の個性を生かしながら、染織表現

における多角的視野と多様性を学び、将来の方向性を見出していきます。社会で幅広く貢献できるようプレゼン能力を身につけ、次世代の染織作家や教育者、テキスタイル・ファッション・空間演出などのデザイナー、起業家として独自のブランド展開をしていける人材と、グローバル化に対応できる人材を輩出します。

卒業後の進路 | 染織 Katsuragawa Miho

テキスタイルアーティスト



現在は、家族の仕事の都合で地方都市に移住したことを機に、地域の繊維産業の皆さんと新しい製品開発の事業も始めました。染織の知識はもちろん、移住や出産などの経験も経たことで、私なりの視点を生かして地場産業と関わっています。思い返せば、学生時代に参加した地域連携事業や、産地の研修旅行などで培ってきた知見も生かされていると感じています。



桂川美帆さん  
2015年博士後期課程修了

# 染織

Textile Arts

新しい感性が、今を染める、今を織る



素材造形分野では、選択した木材またはガラスを主に扱いそれぞれの造形・技法について、演習を通して学びます。木材の演習では、木工に必要な道具の仕立てから、各種基礎技法の演習、総合技法としての家具制作や木材造形を学びます。ガラスの演習では、ホットワーク、キルンワーク、コールドワークなどガラス造形に必要な技法を学びます。取手校地にある様々な工房を利用しながら、素材を通して思考する造形を目指し、卒業・修了制作では自立した研究制作ができる人材育成をします。

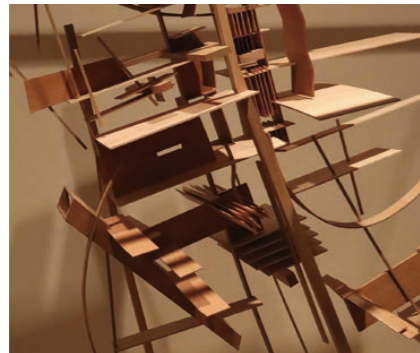
## 木材・木工芸 Woodworking 研ぎあげた刃物で多様な造形を組み上げる

木工は世界の歴史の中で多様な姿と役割を担ってきました。建造物や家具、道具、室内装飾などがあります。その中で日本の木工に注目すると、その造形の考え方や技法、並びに使用する道具の発展に独自性と洗練が見て取れます。本校の木工のカリキュラムでは、木

を組みむ事を中心に据えながら様々な造形と技法を学び、それらを成立させる背景について学びます。卒業・修了後の進路は木工に従事する者、美術家、起業する者、企業のデザインや企画部門への就職、教育者や研究者など様々な方面で活動しています。



鋭く研いだ鑿で、木材の表面を仕上げる。



現在は建築系のデザイナー兼木工作家。作家活動としては、机や椅子といった機能のあるオブジェクトから、彫刻作品のようなものまで幅広く手掛けている。  
建築設計と作家としての作品制作は私にとって大きな差はなく、あくまで素直に、加えて「形を作ること」の本質を見据え、制作している。



卒業後の進路 木材・木工芸  
OMAE Yuga

株式会社イリア  
デザイナー兼木工作家

## ガラス・ガラス造形 Glass 変幻自在なガラスの可能性を追求する

ガラス造形技法を大きく分けると「吹きガラスを代表とするホットワーク」「電気炉を使って制作するキルンワーク」「切り子などガラスを加工するコールドワーク」があり、これら全ての技法を学ぶことができます。教員と頻繁に行うチュートリアルや、国内外の作家を招き、実践

的で幅広い視野を持った授業を行うことで、造形力だけではなく「考える力」「表現する力」を持った、総合力の高い作家の養成を目指しています。卒業後は、個人工房やブランドを立ち上げて、作家活動をする他にガラスメーカーや工房、教育機関に就職をしています。



吹いたガラスを成形している様子。



学部では鍍金専攻、大学院ではガラス造形に進み、卒業後は空間デザイン会社に就職しました。大学では専攻分野に囚われず、広い視野を持った先生方に恵まれ、素材や技法だけでなく表現の根幹にある美的感覚や理念について考えられるようになりました。教授や助手、先輩、後輩との距離が近いのも工芸科の魅力の一つだと思っています。現在は作家として活動していますが、全ての経験が今の制作活動に結びついていると感じています。



卒業後の進路 ガラス・ガラス造形  
OIKAWA Haruna

ガラス作家

工芸科の学生は学部卒業後、それぞれの夢に向かって道を進んでいきます。大学院へ進学し制作や研究を続ける、企業や教育機関・工房などに勤める、自身のブランドを立ち上げて独立するなど、その進路は様々です。

作家活動を続け、ギャラリーやアートフェアなどで作品を発表し、コンペティションで受賞する卒業生を始め、卒業生は、学生生活の中で学んだ知識や経験を基に、デザイナーや制作者など、それぞれの分野でその能力を発揮しています。

## 主な就職先一覧

### 製造・ブランド

- ALTE MEISTER (株)保志
- (株)安藤七宝店
- (株)アンビデックス
- (株)イッセイミヤケ
- (株)イデー
- (株)イピサ
- (株)ヴァンドームヤマダ
- (株)SGC
- (株)STファクトリー
- (株)エフ・ディ・シー・プロダクツ
- (株)エポック社
- MHソリューションズ (株)
- (株)大倉陶園
- 沖縄県読谷山焼北窯 (有)
- 小津産業 (株)
- カガミクリスタル (株)
- (株)柏圭
- (株)カッシーナ・イクスシー
- (株)カブモ
- (株)川島織物セルコン
- (株)くるり
- (株)ケイ・ウノ
- 小泉ライフテックス (株)
- コクヨ (株)
- 小松精練 (株)
- (株)coly
- (株)サザビーリーグ
- (株)サンゲツ
- (株)ザ・カンパニー
- シチズン宝飾 (株)
- (株)シャルマン
- (株)鈴峯
- (株)スタージュエリー
- (株)スペース
- スリーエムジャパン (株)
- セーレン (株)
- (有)清課堂
- (株)sou・sou
- (有)ソラ
- 高橋理子 (株)
- 鍛造指輪 (株)
- (株)チャコット
- (株)土屋鞆製造所
- (株)ディーエイチシー
- (株)ディー・エヌ・エー
- (株)天童木工
- 東洋佐々木ガラス (株)
- 西川 (株)
- 日産自動車 (株)
- ニッポンスリッパ (株)
- 日本アニメーション (株)
- (株)俄
- 任天堂 (株)
- NORITAKA TATEHANA
- (株)箔一
- (株)バルコス
- (株)平林七宝

### 製造・ブランド

- (株)ブラスラフ
- (株)BRUNCH
- (株)ペリテ
- 本田技研工業 (株)
- (株)本保
- (株)マーブルシュッド
- (株)マイトデザインワークス
- (株)マザーハウス
- (株)まんだらけ
- マルミツ陶器合資会社
- ミカレディ (株)
- (株)ミキモト
- (株)ミキモト装身具
- minä perhonen
- (株)三八染工場
- (株)ミライロ
- 村瀬治兵衛工房
- (株)目黒工芸
- (株)目白漆芸文化財研究所
- (株)壺目金屋
- (有)モメンタムファクトリー・Orii
- (株)モンベル
- ヤマハ発動機 (株)
- UHA味覚糖 (株)
- ユニバール (株)
- (株)ヨーガンレール
- 吉田テクノワークス (株)
- (株)良品計画
- (株)ワコール
- I-UPスタジオ (株)

### 企画・デザイン・印刷

- (株)アートナウ
- (株)アクア
- 永大産業 (株)
- (株)HDR
- (株)岡村製作所
- (株)オズ
- (株)オリエンタルランド
- (株)クリーチャーズ
- (株)グレープストーン
- コナミホールディングス (株)
- (株)コンチエルト
- (株)サイバーエージェント
- STUDIO NIJI
- (株)セントラルプロフィックス
- 合同会社 DMM GAMES
- (株)大日本印刷
- デザインフェスタ (有)
- (株)デサン
- (株)テレビ朝日クリエイト
- (株)電通
- 凸版印刷 (株)
- (株)ドラフト
- 日本プレイディ (株)
- (株)パルス
- (株)Plan・Do・See
- (株)ベネッセコーポレーション

- (株)ポリフォニー・デジタル
- (株)マイナビ
- (株)MaGO EXPERIENCE
- (株)モルフォ

### 販売

- ギャラリーきくら主幹
- (株)九つ井
- (株)そごう・西武
- (株)高島屋
- (株)中南海トレーディングコーポレーション
- (株)東急ハンズ
- (株)バーニーズジャパン
- ブリモ・ジャパン (株)
- (株)ベルニナジャパン
- (株)モード・エ・ジャコモ
- (株)ユナイテッドアローズ

### 教育機関

- 【大学】
- 会津大学短期大学部
- 青山学院大学
- 秋田公立美術大学
- 宇都宮大学
- 桜美林大学
- 沖縄県立芸術大学
- 金沢美術工芸大学
- 九州産業大学
- 京都精華大学
- 神戸芸術工科大学
- 静岡文化芸術大学
- 四川美術学院 (中国)
- 女子美術大学
- 杉野服飾大学
- 多摩美術大学
- 筑波大学
- 大邱大学校 (韓国)
- 東京家政大学
- 東京藝術大学
- 東京工科大学
- 東京造形大学
- 東京大学
- 東北芸術工科大学
- 東北工業大学
- 東北生活文化大学
- 富山大学
- 長岡造形大学
- 広島市立大学
- 文化学園大学
- 文星芸術大学
- 北京市立大学 (中国)
- 武蔵野美術大学
- 横浜美術大学

- 茨城県立取手松陽高等学校
- 宇都宮文星女子高等学校
- 香川県公立高等学校
- 学校法人跡見学園
- 学校法人麻布学園
- 学校法人鎌形学園東京学館船橋高等学校
- 学校法人玉川学園
- 吉祥女子中学高等学校
- 慶應義塾中等部
- 慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部
- 埼玉県立進修館高等学校
- 埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学校
- 私立トキワ松学園
- 社会福祉法人葛飾学園
- 女子美術大学付属高等学校・中学校
- 昭和第一学園高等学校
- 成田高等学校
- 聖ヨゼフ学園中学・高等学校
- 聖光学院中学高等学校
- 千葉県立泉高等学校
- 千葉県立八千代東高等学校
- 千葉県立幕張総合高等学校
- 千葉県立流山中央高等学校
- 東京学館船橋高等学校
- 東京都立工芸高等学校
- 東京都立有徳高等学校
- 日々輝学園高等学校
- 明星学園中学校

### 【専門学校等】

- 会津漆器技術後継者訓練校
- 青森県産業技術センター弘前地域研究所
- 石川県立輪島漆芸技術研修所
- 沖縄県工芸技術支援センター
- 御茶ノ水美術学院
- 香川県漆芸研究所
- 柏美術学院
- 学校法人文化学園
- 学校法人水野学園
- 金沢卯辰山工芸工房
- 富山市立富山ガラス造形研究所
- 武蔵野学芸専門学校
- 山梨県立宝石美術専門学校

### その他

- 伊勢神宮
- 市井町役場
- (株)フォルトウーナ
- (株)メーカーズ
- 警視庁
- 社団法人日本クラフトデザイン協会
- 独立行政法人国立印刷局
- 独立行政法人造幣局
- アトリエ TOCOHA
- 新見市役所企画政策課
- 八戸市まちづくり文化スポーツ観光部
- 星野リゾート
- ユカイ工学 (株)

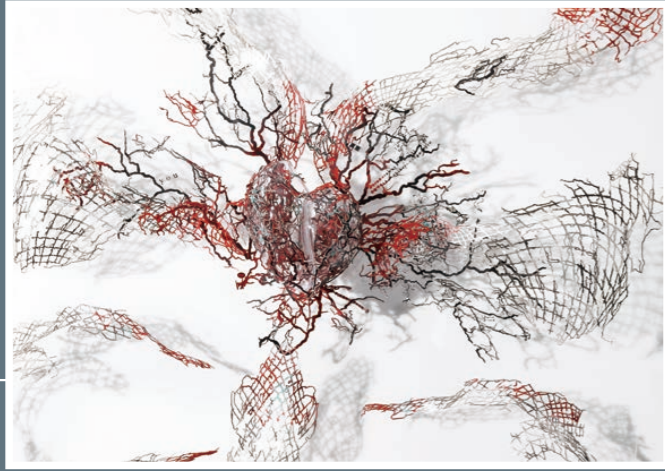
### 【高等学校・中学校・小学校】

- 青山学院横浜英和中学高等学校
- 茨城県公立高等学校

## 彫金

卒業作品

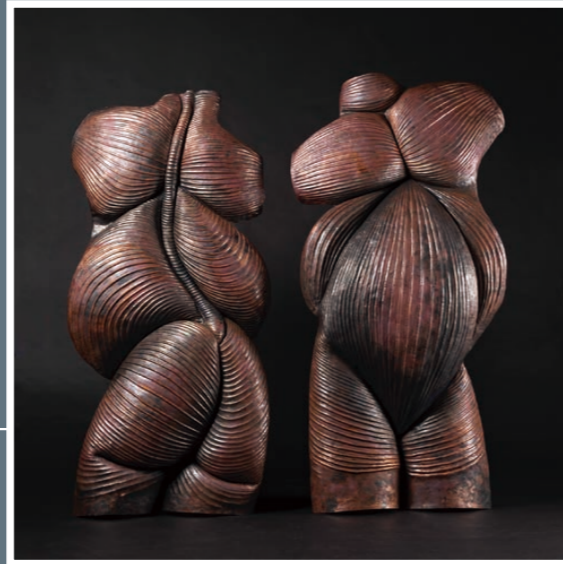
高橋 星《真意 装身具を媒体としたオブジェ》  
技法:透かし彫り、腐食 / 素材:銀、真鍮、ガラス、岩絵具、耐熱塗料  
h6×w165×d75 cm



## 鍛金

修了作品

松木 建人《BODY・BODY》  
技法:打ち出し / 素材:銅  
h200×w100×d100 cm



## 陶芸

卒業作品

太田 実来《ここは風景 / ある日の詩》  
技法:手捻り / 素材:陶土、磁土、木  
h90.0×w243.8×d121.9 cm



## 染織

修了作品

菊池 虎十《寄生する精霊》  
技法:無防染 / 素材:綿布、反応性染料、抜染剤  
h489×w700×d30 cm



# 卒業・修了作品の紹介

学生生活の集大成

卒業・修了制作は、学生が作家、あるいは研究者として世界に踏み出す第一歩となります。工芸科での制作は、伝統の中で培われてきた技法を学び、知識を得て、さらに自己鍛錬

し、素材の特性を見据えつつ、技術の習得を目指します。学生は大学で様々な経験を積み、技術の習得はもとより、新たな素材との出会いや創作活動の中で独自の表現を追求します。

情熱と探究心を持ち、挑戦を続けた卒業・修了作品は、自己の創作活動の大きな区切りとなるだけでなく、工芸の世界に新しい可能性を提示し続けています。

## 鑄金

修了作品

魏 路生《螺旋からの進化》  
技法:石膏埋没鑄造 / 素材:真鍮  
h42×w98×d38 cm



## 漆芸

修了作品

重原 雪花《穏やかに満ちゆく》  
技法:乾漆、蒔絵 / 素材:漆、麻布、銀、木  
h121×w79×d8 cm



## 木工芸

修了作品

藤原 未弥《あわい》  
素材:杉、ナラ、ツガ  
h180×w270×d140 cm



## ガラス造形

修了作品

杉江 遥奈《Body》  
技法:キルンワーク / 素材:ガラス  
h37×w45×d40 cm



Department of Crafts  
研究室紹介

工芸科は彫金、鍛金、鋳金、漆芸、陶芸、染織の6分野に、2022年度学部カリキュラムより併設された素材造形(木材・ガラス)を加えた7分野14研究室を有しています。

大学院(修士・博士課程)においては、専門分野を主軸とした教員それぞれのテーマやキーワードを強みとする研究室に所属し、指導教員と学生が面談をして学生自身の研究テーマを確定します。各研究室の技術力・発想力・行動力などの特性を生かした指導のもと、各々に必要な専門分野の研究を深

めていきます。学部で得た技術・知識をさらに推し進めた専門性に特化する研究が可能であるとともに、世界各地にある国際連携校を含めた国際交流を積極的に行う研究室、社会連携や国内外のプロジェクトに参加する研究室など、国内外へ広く発信を行いつつ、学生の視野を広げる取り組みも行っています。

独創性・独自性を持ち合わせた教員による専門性のある研究室と多様な専門分野の設備を有している本学ならではの研究や経験を積むことのできる環境が整っています。



教授 前田 宏智

専門分野 | 彫金  
MAEDA Hiroto



テーマ  
素材と手法の展開  
キーワード  
金属素材の面白さ  
行為と表現



金属は元来鉱物として存在し、様々な性質、個性をもっています。有史前から作り手は対話を繰り返して、魅力を引き出し、試行錯誤を重ねてモノを生み出してきました。そのような観点から、彫金を中心とした様々な素材や技法、道具などをあらためて受け取り、現代に求められる表現のために作る力を広げたいと思います。

教授 岩田 広己

専門分野 | 彫金  
IWATA Hiroki



テーマ  
複合装飾/ジュエリー  
キーワード  
純粋と応用  
身体と造形  
感覚と思考



金属に装飾を施す彫金という造形行為のもとに、素材や技術は元より、思考を軸とした表現や対象とする事柄の本質を考え、様々な要素が重なり合う複合的な視点や手法で、人から空間に至る様々な場面における造形やジュエリー表現の可能性を求め研究を行っています。

教授 丸山 智巳

専門分野 | 鍛金  
MARUYAMA Tomomi



テーマ  
金属造形表現  
キーワード  
伝統技法と現代



鍛金の伝統技法と現代の機器を用いて、より自由な造形表現の可能性を研究し、鍛金の要である道具造りから金工技法を学ぶことにより本質的な造形力を養う授業展開をしています。社会との連携においてもワークショップ等を介して金属造形の楽しさを提供しています。

教授 谷岡 靖則

専門分野 | 鋳金  
TANIOKA Yasunori



テーマ  
消失原型による細密鋳造表現  
キーワード  
細密表現  
消失原型  
ロストワックス鋳造



ロストワックス鋳造法は紀元前から現代に至るまで使われている技法であり、世界各国との地方でも実践されています。その技法は様々であり、鋳型にはその地方の特色も見られます。本研究室では美術鋳造の基本であるロストワックス鋳造法を多岐に亘る視点から紐解き、現代に於けるより細密な鋳造表現の可能性を探りながら新しい表現は何かを研究しています。

教授 志村 和彦

専門分野 | 鍛金  
SHIMURA Kazuhiko



テーマ  
金属造形  
キーワード  
鍛造表現



素材の特性を理解しつつ表現していくことで気づく自己の世界観や、伝統技法を基盤として新たな表現の可能性を探ることが大事だと考えます。素材、技法、自己の世界観のそれぞれを対話させながら、主に鉄を素材として鍛造技法による作品を展開しながら、金属造形表現の可能性を追求しています。

准教授 三枝 一将

専門分野 | 鋳金  
SAEGUSA Kazumasa



テーマ  
鋳造の芸術的表現  
キーワード  
ロストワックス  
真土型/型取り  
鋳造技術史研究



溶解した金属を鋳型に流し込む行為はシンプルですが特有の醍醐味があり、そこには刹那、永続、境界、象徴、模倣、変容などの意味と世界観を孕んでいます。また、工程の中で移り変わる多様な素材と対話することは私達の身体的な想像力を刺激してくれます。常にフィジカルに思考しながら、学生と共に現在進行形の鋳金表現を探求していきたいと考えます。

教授 小椋 範彦

専門分野 | 漆芸  
OGURA Norihiko



テーマ  
漆芸技法の応用  
キーワード  
蒔絵 / 螺鈿 / 乾漆  
伝統技法

金属粉や貝を用いた伝統的な  
装飾技法（蒔絵や螺鈿）と造形  
表現（木胎・乾漆）に現代的な感覚を  
取り入れた漆芸技法の追求をしてい  
ます。学生と共に漆芸技術のあるアジ  
ア圏を中心に交流を積極的に行い、研  
究成果を国際社会へ発信しています。



教授 青木 宏憧

専門分野 | 漆芸  
Aoki Kodo



テーマ  
乾漆造形  
キーワード  
乾漆  
塗料表現  
漆液精製  
装飾造形



漆は植物の樹液です。縄文時代から日本で使われてきた造形素材で接着剤、  
塗料の2つの役割があります。形を造るところから画材まで一貫して漆が主  
軸になり造形が可能です。制作にはとても時間を費やしますが、完成した時の輝  
きは他の材料では表現出来ない美しさがあります。

教授 橋本 圭也

専門分野 | 染織  
HASHIMOTO Keiya



テーマ  
織維造形  
キーワード  
織維造形・織・染



織・染・織維造形の幅広い  
研究制作と教育の経験を  
活かし、織維素材を用いた造形  
表現や活動をサポートします。  
指導教員と学生は対等な関係  
で、個々の研究概要に沿って大  
学院修了後の活動を見据えた  
独自性の高い研究活動を探求  
します。研究室と修了生は、将  
来も協働できる存在になること  
を目指しています。

准教授 山田 菜々子

専門分野 | 染織  
YAMADA Nanako



テーマ  
伝統染色技法の展開  
キーワード  
糊防染  
着色防染  
型染  
友禅染



伝統染色技法である、友禅染・型染に着目し、糊による着色防染技法を使っ  
て独自の表現に展開し、新しい染表現を探求しています。また、それら伝統  
技術の記録・保存への取り組みも重要視し、その上で「染める」ことだけではなくテ  
キスタイル全般の可能性や多様性に目を向け、柔軟な視点・思考に重きを置いた指  
導を目指します。

教授 三上 亮

専門分野 | 陶芸  
MIKAMI Ryo



テーマ  
焼成による素材変化  
キーワード  
窯構造・築窯  
土  
技術・技法  
陶の可能性

窯構造、焼成方法、築窯を通して陶芸の視座を養い、土・素材自体を問い、新  
たな解釈、造形の可能性を追求します。



准教授 椎名 勇

専門分野 | 陶芸  
SHIINA Isamu



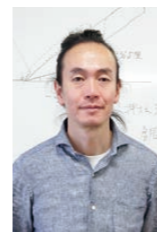
テーマ  
陶磁造形  
キーワード  
素材探求  
質感  
器  
表現



陶磁造形素材の研究を進  
め、用途と美術表現の両  
視点から色彩・形態・質感との  
関係性を探求し、陶磁造形と  
物・人・空間・社会との関連性  
を追求しています。

講師 菌部 秀徳

専門分野 | 素材造形(木材)  
SONOBE Hidenori



テーマ  
木工の技法と材料 / 木材の造形  
キーワード  
木工とかたち / 手仕事と木工具  
木工における構造  
リレーション



本研究室では木工技法材料研究と木材造形研究を主旨としています。この過  
程を通じて、一人一人が独自の素材観を培い、技法の修練をしながらその制御を  
身につけます。また制作した作品や研究がその本質を衝くものであるか、教員学生共  
に批評性を持ちながら対話をしてゆき  
たい。それらを踏まえて創作のベースと  
なる豊かな感性や自立した理念を養い  
現代社会における有効な作品のあり方  
を探求し、そして人々との多様で良い  
関係性(Relationship)を築くものを見つ  
けたいと思っています。

教授 藤原 信幸

専門分野 | 素材造形(ガラス)  
FUJIWARA Nobuyuki



テーマ  
ガラス素材を用いた作品表現  
キーワード  
現在のガラス造形  
技法研究  
造形の社会実践



伝統的な技法の習得を通して、  
個人の自己表現に留まらずに  
工芸、美術、芸術の社会に対する実  
践を学ぶ力をつけていきます。また、  
個人の制作と共に、研究室活動やプロ  
ジェクトに参加したりしながら経験を  
積んでいきます。留学生も多く、海外  
との交流も盛んに行っています。



www.kogei.geidai.ac.jp  
工芸科ウェブサイト

www.geidai.ac.jp  
東京藝術大学ウェブサイト

DEPARTMENT OF CRAFTS,  
TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS

Cover: 秋元麻由美《Composition of mine》(修了買上作品) 技法: 乾漆 / 素材: 漆、麻布、顔料、罌 / h34xw117xd65cm



東京藝術大学

上野校地 | 〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

取手校地 | 〒302-0001 茨城県取手市古文間5000

お問い合わせ先: 050-5525-2075 (東京藝術大学学生課入学試験係)

本書に掲載されている内容は2024年5月現在のものです。図版および文章の無断転載を禁じます。  
©2024 Department of Crafts, Tokyo University of the Arts